OMC News 大阪ムービーサークル

OMC事務局　〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原一夫 TEL06-6833-9227
広報編集局　〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田茂夫 TEL072-850-5781

平成１３年１２月（2001年）Ｎｏ．４３２

大阪アマ連映像祭 盛会で無事終了

大阪市立中央図書館との共催による大阪アマチュア映像祭は、11月18日（日曜）午後開催されましたが、」まずは盛会裡に無事終了し、ほっとしました。単独では公開映写会を持ってないクラブにとっては特に有意義だったと思います。当日お世話頂いた方々に感謝いたします。

ビデオコンテスト入賞おめでとうございます

下記の方々が全国的なビデオコンテストに入賞されましたのでお知らせいたします。おめでとうございます。

■第１回彩の国埼玉全国映像コンテスト
◎グランプリ　「古都の韻（ひびき）」　関　剛さん

■アストロデザイン・ムービーコンテスト2001（幕張メッセ国際放送機器展会場。プロアマ合同のノンリニア加工・編集作品が対象）
◎審査員特別賞　「マッターホルン ハイキング」　有村　博さん

新年会兼総会のお知らせ

ＯＭＣの新会計年度は１月より始まりますが、新年の始めに当たって、新年会兼総会を昨年同様、さと法善寺店にて１月２０日（日曜日）18時より開催します。詳細は同封の別紙にてお知らせします。万障繰り合わせのうえ是非ご出席くださるようお願いします。

■世話役会の開催の件：12月例会日（22日第４土曜日）の16時より行いますので、世話役（別紙案内）の方はぜひご参集ください。

■来年度年会費を納めて下さい。来期の年会費 8,000円を、できるだけ12月例会日に会計へ納めてくださるようお願いいたします。

■予告：３月例会日は会場の都合で第５土曜日になります。

１２月例会と作品研究会のお知らせ

作品研究会は12月22日（第４土曜日）13時30分より、例会は18時より阿倍野市民学習センターにて行います。作品研究会は花と彫刻展のミニ撮影会作品を中心に行いますがその他の作品も時間の許す限り上映します。今年最後の研究会と例会です。楽しいひとときを過ごしましょう。

１１月例会レポート

朝夕はめっきり冷え込む季節となり、紅葉も真っ盛りの 11 月 24 日の例会日でした。撮影へあちこち旅行されていて或いは集まりも悪いかと懸念されましたが、そこはそれ、例会を楽しみにしておられる大勢の会員さんが集まって、26 名の参加者と 18 本の作品をみて、時間一杯の充実した例会となりました。今月の司会は合原会長、書記は関さん、デッキ係は奥さんと渡辺さん、受付兼照明係は増池さんと良枝さんの担当で会を進行させました。冒頭、司会から関さんと有村さんの全国ビデオコンテストに入賞の知らせがあり、拍手で祝福しました。

■出席者：有村、今井、江藤、江村、岡本、奥、上総、金子、河合、合原、関、中尾、那須、西村、藤原、前田、増池、宮崎、森口、森、森田、吉岡、安居夫妻、渡辺、進藤（以上２６名敬称略）。

■上映作品：（今月の講評は関世話役です。）

１．舞台袖　　１４分５０秒　　上総修一郎さん

京鹿子娘道成寺。舞い手も囃子方もそれを支えるスタッフもすべてプロ。普段、関係者以外は入れない舞台上手の袖に作者はカメラを持ち込んだ。むろん家元の了解があってのはなしだ。そこには客席での鑑賞と次元の違う世界が展開されていた。

あわただしく行き交う人々のシルエットに、ミスの許されない緊張感が伝わってくる。衣裳替りで袖に戻ってきた主人公のカメラへ向けた笑顔で、ようやくほっとしたものを感じた。ラストは、鐘に登る妖艶な舞姿を舞台正面にまわって撮った機敏な対応もみごとだった。幕のあとの人々の表情も欲しかったが、ひとりで撮るのはこれが限界だろう。

これは近年の作者のさらなるヒット作になることは間違いない。

２．田歌の田楽　　９分４０秒　　河合源七郎さん

田歌とは美山町にある地域の名称。ここで古くから伝わる神楽舞の準備が村人総出でおこなわれていた。田の神を祭って豊作を願い、和合の舞を奉納して子孫繁栄を祈願する。行政や観光資本に媚びることなく、村人たちだけの手作りの素朴な祭。さまざまな田楽の原点がまだここにはあるような気がする。

作者の美山シリーズもいよいよ核心に迫ってきた。「かぐら宿」と言っても大農家の邸宅。その座敷によそ者があがり込んで太鼓の練習や化粧中の奴を撮るなどはよほどの信頼関係が築かれないかぎり難しい。通い続けた作者の人柄が土地の人々に分かってもらえた結果だと思う。シリーズの完結もそう遠くはないだろう。

３．隼人舞　　６分１２秒　　金子博泰さん

たぶん二度三度と撮影に通ったのだろう。作者の熱心な姿勢が映像からうかがえた。京田辺市の月読神社で舞われた「無形文化財」と、タイトルにある。だが前座の神楽も主題の隼人舞も、演じるのはまだあどけなさが残る少年少女たち。彼らなりに懸命に舞っていると思うが、どこか学芸会の延長のようにも見えた。それを定位置に張りついたままのカメラがロングで追っているから迫力はいまひとつ。

作者は最近、古代からの朝鮮半島と日本のかかわりについて研究していると言う。ここでも月読神社と朝鮮から渡来した大隅隼人のいわれを序盤の字幕で説明しているが、文章が難解でこれを理解させるには少々無理があった。

４．剣豪のふるさと　　６分５０秒　　森口吉正さん

ＮＨＫの「春の坂道」が放映される直前に、ある８ミリ映画クラブの撮影会を行なったことがある。かつての柳生は観光客もめったに来ない静かな山里だった。ところがドラマが始まった途端に人がどっと押しよせ、食堂やみやげもの屋の乱立で様相が一変、撮り足しもままならなかったことを思い出した。あれからのち柳生には足をはこんでないが正木坂の道場はどう変わったのだろう。残念だがこの作品には出てこなかった。農閑期は鍬を竹刀に持ちかえて道場通いをするのが柳生伝統の文化、農家の男子は剣道の有段者も多いと聞く。石舟斎や宗矩の昔を語るのもたいせつだが「剣豪のふるさと」の現在の姿が少しでもあれば、たぶんそれを山場とした秀作に仕上がっただろう。

５．感動　　５分１０秒　　安居良枝さん

作品研究会で再びトライした靭公園。そこで作者が見たのは野外の結婚式だった。新郎はりっぱな好青年、ところが新婦はなんと車椅子の身体障害者。神父の問いかけに新郎は「はい、誓います」と大きな声ではっきり答えたが、体から絞り出すような新婦の言葉はその口元に向けたマイクも空しく噴水の音にかき消されていった。参列者の了解を得たと言うからかなりリアルな映像だ。私は作者の以外とクールな一面を見た気がした。しかしこの作品を見た例会の人はどんな感慨をもっただろう。“感動”よりカップルのこれからを案じたのではないだろうか。

６．大阪の渡し　　８分３０秒　　安居利次さん

かつて水の都と言われた大阪は 31 箇所の渡し船があったが今は８箇所。そのうち大正区に７箇所が集中している。それは比較的大きな船が通る尻無川、木津川に挟まれているためで北部の大正橋、大浪橋以外は桁下 30 メートルもある橋しかない。これを人や自転車が渡るのはたいへん。というので道路の一部と位置付けして残った。もちろん無料だ。通称めがね橋と言われる千本松大橋。真下に渡しがあるが、敢えて 30 分もかけて自転車で橋を渡った作者は肩で息をしていた。ご苦労さま。地域の住民に渡しがいかに役立っているかを証明してみせたのはよかったが、利用者のインタビューは作者のあいづちの多さが少々気になった。

７．信州スケッチ　　３分５０秒　　西村光雄さん

秋の松本城と安曇野そして木崎湖。それぞれ場所の転換をＰＣのエフェクトで処理してある。おもしろいのは道祖神の場面を古い８ミリ映画で見ているような効果をかけたことだ。そしてビデオフィルターで線画処理した画面をクロッキー画のキャンバスに見立ててズームバックするとそれがイーゼルに納まった。つまりこれが題名の「スケッチ」という意味で、洒落たラストになっている。

作者は早くからＰＣ編集をされていたが、目立ったエフェクト効果を使うことはあまりなかった。今回は内容の軽い作品で試してみたと言うところだろうが、私は作者の感性になにかきらりとするものを感じた。

８．静かなるエロスの宴　　４分４５秒　　関　剛さん

靭公園の彫刻展。昨年ほどのバラエティがなかったので、女体像に的をしぼり前作とは違うねらい方で実験した。

９．ツェルマットの街角　　６分２０秒　　那須典彦さん

スイスの映像もこれで何本目か。この人は外国へ旅行してもほとんどファインダーから目を離すことはないのだろう。よくぞこれだけ様々なものを拾えるなあと感心した。ただ前後のカットに互いの関連性が薄いため、なにか無造作に映像をばらまいたような印象を受ける。それに加えて音楽が単純でつまらなかった。ノン・ナレは選曲がかんじん。作者はそんなことは百も承知のはずだが。

10. 初めての尾瀬花紀行　　９分４５秒　　進藤信男さん

初めての尾瀬が。初めてのパソコン編集で。初めての例会出品とは。ちと出来すぎか。いいえ、この作品はよくできている。例会作としては初お目見えだが、かなりの制作経験はお持ちのようだ。初めて尾瀬に行って、しかも雨模様の中でこれだけの映像はなかなか撮れない。

花がお好きなのか、むつかしい名前がたくさん出てきた。だがテロップの色が周囲と同系統でちょっと読みにくい。この作品にナレーションは必要だが、そのときはＢＧＭの音量をすこし下げるようにお薦めする。

11. 心に残る原風景　　９分２３秒　　有村　博さん

９月の作品研究会に「心に残る人たち」で出されたネパールの作品。コンピューターですべてが動いている世の中で、いまだに動物の動力と人の手に頼った農作業がおこなわれている貧しい国。そんなネパールの農民たちを的確なカメラで追ったすばらしい内容だが、やはり題名がしっくりとこない。皆さんの意見を聞いてこの題名を決めてそうだが、作者はまだ迷っていた。

総じて客観的手法で撮られた映像だから「人たち」や「原風景」は通用するが「心に残る」は作者の内面的感情だ。感情を旗印に掲げると客観的映像との次元が合わなくなる。この作品に主観的とか心象的映像はどこにもない。要は「心に残る」にこだわらない方がいいのではないか。

12. 花と彫刻展　　５分５０秒　　増池　茂さん

作品研究会のミニ撮影会のもの。いつもガッチリ確実に撮るのがこの作者の特徴だが、今回は全カット三脚を最短に、つまり地上６０センチに設定して撮ればどうなるかを試したそうだ。言われればそうかなと思うが、正直言って普通に撮ったのとほとんど変わらない。カメラを地面に据えるぐらいの徹底したローアングルなら画面に変化もつくが、６０センチは中途半端だった。それとカットごとにズームの焦点距離を変えたのではローアングルの効果はなくなってしまう。

13. 私の町の秋祭　　７分２０秒　　宮崎紀代子さん

山車を曳く勇壮なシーンが続く。だんじり祭のように山車が走りまわることはないが、それなりに迫力ある映像だ。作者にはめずらしくナレーションがない。

ノンリニアを導入して初めての作品になった。したがってさまざまなエフェクト画面が随所に出てくる。なかには見ていて逆効果のもあるが、これもＰＣ編集に移行するひとつのステップになるのかもわからない。

14. 花と彫刻　　５分５０秒　　奥　　宏さん

靭公園のミニ撮影会。こちらはいろいろアングルを変え、次のつながりを考えながら撮っていた。そしてなにより編集にリズム感がある。軽快な音楽を使ったことで、その相乗効果が出たのも確かだ。同じものを撮っても人それぞれ違うものだとあらためて感じた。

15. コスモスの庭　　４分３５秒　　江村一郎さん

野原にコスモスが咲いているなんの変哲もない素材だが、新兵器のバランスシステムを使った映像だろう、ぐいぐい迫ってくる超アップが実によく利いていた。かまきりがカメラにむかって鎌を振り上げたおもしろいシーンが途中で切れてしまったのが残念。

■インターネット情報

インターネットといえば、電話線（ISDN、ADSL）、CATV、または FTTH（光ケーブル）などの有線によるものと思っていましたが、今後は無線方式も有力となってきました。その実験が東京で始まりました。携帯電話の次は、無線 LAN によるネットがはやるかも知れませんね。（以下はネット版で・・・・・・）